

第 8 回大阪マラソン「みんなでかける虹」エピソード集 Vol.2

走る人（ランナー）、応援する人（観客）、支える人（ボランティア）、
みんなが主役の大阪マラソン。ランナーだけではなくそれぞれの、
魅力的なエピソードや今大会への想いをご紹介します。

- 今津 郁弘(いまづ ふみひろ) 50 歳 兵庫県在住
種目:マラソン(日本陸上競技連盟に登録していないランナー)
チャリティカラー 緑《子どもの未来を支える》



闘病する両親、部活動に励む息子。 不安と戦う家族の気持ちを胸に、走り抜きたい。

——今津さんは、なぜ走るのですか？

マラソンをしている間、さまざまなことを考えます。両親のこと、息子のこと、自分自身のこれからのこと…。頭の中をグルグルさせながら走っていると、ゴールしたときには不思議とスッキリしているのです。考えても答えが出ないようなことだったとしても、走り終わると何か納得できるような、そんな気持ちになることができます。

——家族を支えるために走っている？

母は急性白血病になり、現在も抗がん剤を投与しながら闘病中です。父も特別養護老人ホームに入居しています。二人とも、私が走っていることは知らないと思います。二人も、きっと不安と戦っている。支えるというより、自分なりの生き様を示すために私は走っています。私にとってフルマラソンは、42.195kmの「考える時間」を与えてくれる機会です。

——バスケットボール部の息子さんも負けないように。

息子はスポーツ推薦で進学し、兵庫県で1位のチームに所属しています。エリートばかりの環境に食らいついていくため、必死の毎日を送っています。息子の試合を見に行くのが何よりの楽しみです。実は私も、今年の11月に仕事を独立し、新たな一步を踏み出します。だから支えてくれているのは、誰よりも妻ですね。笑顔の応援に応えるために、最後まで走り抜きたいと思います。

- 山城 幸靖(やましろ ゆきやす) 55 歳 大阪府在住
種目:マラソン(日本陸上競技連盟に登録していないランナー)
チャリティカラー 紫《美しいまちと暮らしを支える》



バトンを次の世代につなぐ。 家族三世代で楽しめる「大阪万博」を実現したい！

——2年前に左足の半月板と側副靭帯を痛めたそうで。

2014年に大阪マラソンに参加したのが初のフルマラソン。年齢に負けずチャレンジしていこう！という意気込みで始めました。しかし、つい2年前に階段を踏み外し、松葉杖生活に。今では回復して、数キロ程度のトレーニングはしていますが、長距離を走るのは久しぶり。また、改めて再チャレンジですね。

——ご家族も応援してくれていますか。

三姉妹の娘がいますが、あまりわかりやすい応援はしてくれないんです(笑)。2014年に参加した時も、なんだかあまり興味がない様子。当時は初めてのフルマラソンに緊張していましたが、無事に完走することができました。そのことを家族にも報告しようと帰宅すると、私が話す前に娘たちが「完走したみたいやな！おめでとう！」と…。どうやらスマホで逐一チェックをしていたみたいです。イマドキですね。

——2025年の大阪万博にも、実現すれば家族で行きたいとのこと。

1970年に祖父母に連れられて行った大阪万博には、楽しい思い出がたくさん残っています。家族三世代で楽しめるイベントの存在は偉大です。もちろんこの大阪マラソンも同じ。自分の親と、自分の子どもたちと、同じものを見て楽しむ。そうすると、歴史の上に自分たちが生きているということが自覚できます。自分が走る姿を見て、子どもたちにも「チャレンジする勇氣」を受け取ってほしいと思います。

● 谷原 多賀雄(たにはら たかお) 55歳 兵庫県在住

種目:マラソン(日本陸上競技連盟登録競技者)

チャリティカラー オレンジ色《子育てと若者を支える》



息子は大阪府警機動隊からランニングポリスとして参加。いつまでも元気よく、走り続けていたい。

——息子さんは、元山梨学院駅伝部のキャプテンだそうです。

大阪マラソンには6回目の参加になりますが、実は自分が走ることよりも息子の応援をしていた頃のほうが断然しんどかったんです。ハラハラ、ドキドキしながら見守っていました。「頑張れ！」という想いで胸が張り裂けそうになる。今では息子も大阪府警察に勤務。今や私のほうがハラハラされているかもしれません。

——昨年導入されたランニングポリスも務めているとのこと。

目元にカメラをつけながらランナーとともに走り、警備にあたるランニングポリス。実は去年、スタート地点の関係で息子とともに走り出しました。こうして同じ大会で走ることができるのは嬉しいです。あまり詳しく聞くことはできませんが、今年もランニングポリスを務めるかもしれないとは聞いています。姿を見られるかどうかはわかりませんが、一緒に走っていると思うと負けていけない気持ちになりますね。

——第8回大阪マラソン、今年の目標は？

今は3時間半を切ることをめざして走っています。しかし、マラソン歴も12、3年になり、記録を更新するのも難しい年齢になってきました。だけど、まだまだ諦めたくはない。マラソンの醍醐味はやはり、目標を設定して、それを達成できたときの喜びです。大阪マラソンは応援の力で元気を貰える。頑張る息子からは勇気を貰える。いくつになっても、結果を追い求めて挑戦したいと思います。

● 吉田 綾子(よしだ あやこ) 46歳 熊本県在住

種目:マラソン(ペア)

チャリティカラー 紺色《スポーツ・文化を支える》



熊本から大阪へ、文楽のまちを駆け抜ける。笑って泣いて人情豊か、文楽とマラソンは似ている！

——文楽鑑賞に、たびたび大阪を訪れているそうで。

高校で国語の教師をしています。文楽の面白さを知ったのは15年ほど前。夏休みの文楽特別講演を、大阪の国立劇場で見たのがきっかけです。はじめは、太夫さんの語りに惹かれました。命が宿っているような人形の動きや、情感たっぷりの三味線も魅力的。文楽目当てで、大阪をたびたび訪れるようになりました。

——コースでは国立文楽劇場の前も通過しますが。

大阪マラソンには初参加ですので、普段訪れる大阪とどんなふう違った景色が広がっているのか、今から楽しみにしています。「あきらめずに一步一步」というメッセージを込めて走りたいですね。生徒たちには、文楽にもマラソンにも興味を持ってもらえたら嬉しいなと思います。大切な文化ですから、次の世代につないでいきたい。文楽のカレンダーを教室に貼ったりもしています。

——今度はランナーとしての来阪になります。

文楽は分業制の芸術です。それぞれが役割を果たしながらひとつになって、物語をつむいで届ける。マラソンは一見孤独な闘い。だけど、「イベント」全体を俯瞰すると似ていると感じます。ひとりで走っているわけじゃなく、沿道の応援が大きな力になる。応援やボランティア、そしてランナーがそれぞれの役割を担いつつひとつになって、「大阪マラソン」という、笑って泣ける人情劇が実現するのだと思います。

● 池田 美樹(いけだ みき) 49歳 兵庫県在住

種目:マラソン(グループ)

チャリティカラー 赤色《生きる希望を支える》



車いす生活となった息子の、前向きな行動力に救われた。同じ立場の人々にも、感謝と生きる希望を伝えたい。

——大阪マラソンには2回目の参加になります。

フルマラソンの経験も無いまま、数年前に初めて参加しました。初めてのことで、とにかく時間があれば走ってトレーニング。怖がりながらも、しっかり備えて本番の日を迎えました。走っている間は苦しかったけれど、やはり完走したあとの達成感はひとしお。それから、「また走りたい!」と思い続けていました。

——しかしながら4年前、息子さんが事故で頸椎損傷に。

胸から下が完全麻痺し、車いす生活を余儀なくされた息子。家族の暮らしは180度変わってしまいました。正直な話、私自身が精神的に参ってしまい、ママ友たちとも疎遠に。しかし息子は明るく元気なままでした。むしろ事故以前のやんちゃな性格から、「ありがとう」と「ごめんね」をちゃんと言葉にできる立派な大人に。高校も卒業し、車の免許を取るなど、自分にできることを全うする息子に勇気をもらいました。

——そして今回の大阪マラソンは、ママ友たちとのグループ参加です。

家にこもりがちだった頃、同じ立場の人々の気持ちを知りたくて、ブログを書くように。そして、同じ悩みを抱える人たちの言葉に励まされました。だから今度は私自身が走ることで、同じ悩みを抱える人々に勇気を与えたい。前向きに生きる息子にも負けないように、母として、しっかりと。希望を与えてくれた皆さんに、待っていてくれたママ友たちに、そして誰よりも息子に、感謝を込めて完走をめざします。

● 安井 昌博(やすい まさひろ) 56歳 大阪府在住

種目:マラソン(グループ)

チャリティカラー 緑《子どもの未来を支える》



自身も四肢麻痺を乗り越えた小児科医。闘病生活を送る子どもたちに勇気を与えるランを!

——5年前にギラン・バレー症候群に罹患。

ギラン・バレー症候群とは、筋肉を動かす運動神経が障害され、重症になると気管切開や人工呼吸器が必要になる疾患です。私自身も四肢麻痺となり、人工呼吸器のお世話になって寝たきりの数カ月を過ごしました。もう動けないのではないかと怖くもありましたが、家族の支えのおかげで戦い抜くことができました。

——4か月のリハビリを経て、こうして走れるまでに。

治療の甲斐あり、退院後は動けるように。とはいえ10kg痩せ、体力も衰えていました。そんな状態でしたが、職場の仲間が誘ってくれたこともあり、今年は堺シティマラソンへの参加を決意。あまり練習もできなかったため不安がありましたが、好タイムで完走することができました。この度の大阪マラソンは、私にとって病魔克服の集大成です。完走をめざして走り抜きたいと思います。

——ご自身も小児科医として、小児がん医療に携わっているそうで。

仕事柄、闘病生活を送る子どもたちとはよく触れ合います。自分自身も難病を経て立ち直ることができたからこそ、彼らの気持ちに寄り添ってほしい。自分が家族から支えてもらったように、病魔を克服しようとしている子どもたちに勇気を与えたいと思います。大阪マラソンは沿道の応援パワーもすごい!互いに励まし合うことで、生きる勇気は何倍にも膨れ上がると思います。

● 笹岡 寛和(ささおか ひろかず) 56歳 大阪府在住

種目:マラソン(日本陸上競技連盟登録競技者)

チャリティカラー 黄色《家族を支える》



天国で応援してくれている次女、亜香音のために。
そして、八尾アスリートクラブのキャプテンとして。

——次女である亜香音さんは白血病と闘いました。

2012年の大阪マラソンで、私を応援しに来てくれた妻と次女の亜香音。事前に決めた応援ポイントで「お父さんがんばれ」と書いた手作りうちわを振って、大声で応援してくれていました。ところが次のポイントで姿が見えず。心配していたところ、娘が沿道で嘔吐していたそうです。すぐに検査入院、白血病の診断が下りました。

——天国へ旅立って、3年7カ月が経過。

入退院を繰り返しながら、亜香音は闘い続けました。2013年には少し回復し、再び大阪マラソンの応援に来てくれました。当時21歳の娘は嵐の大ファンで、特に櫻井翔君が好き。大阪ドームでのライブに、車いすを借りて連れて行ったことも。しかし、帰らぬ人となるその日が…。それからは、娘との思い出を噛みしめながら走り続けています。今も応援ポイントできっと応援してくれている。そんな気がするのです。

——目標は3時間30分、別府大分マラソン大会への参加権を。

今年から八尾アスリートクラブのキャプテンになりました。家族、そしてクラブのメンバー。たくさんの方々からパワーをもらっています。この応援に背中を押してもらい、今回の大阪マラソンでも3時間30分を切って走り抜きたい。そして、別府大分毎日マラソンへ参加する権利を更新したいです。別府大分毎日マラソン大会も、娘が応援に駆けつけてくれ、ともに温泉に入った思い出深い場所ですから。

チャリティランナー

森口 高一(もりぐち こういち)さん

寄付先団体:認定 NPO 法人ノーベル

都道府県:兵庫県 年齢:43 歳 性別:男



運動不足で始めたマラソン。今回は、高校時代の先輩を想って。

中学生の頃から 20 年ほど続けていたサッカーをやめて数年。体重は増加し、健康診断でも異常が認められるように…。そんな運動不足の日々を過ごしていたある日のこと。ふと参加したフットサルで靭帯損傷、全治 6 か月の大ケガ！これをきっかけにジムに通うようになりました。そして、モチベーションを維持する目標にしようと思ったのが大阪マラソンです。フルマラソンは初めてでしたが、トレーニングの甲斐あって無事完走することができました。同時に、健康を取り戻すことができたという強き実感。それからランを継続しています。今回は認定 NPO 法人ノーベルをチャリティー先に選択しました。高校時代に尊敬していた先輩が、ひとり親になっても懸命に働き、子どもを育てています。こうして走ることで、少しでも勇気を与えることができればと思っています。

土屋 修(つちや おさむ)さん

寄付先団体:認定 NPO 法人ノーベル

都道府県:大阪府 年齢:57 歳 性別:男



命を救われたから、今の自分がある。これからは他の誰かのために。

初めてのマラソンは銀婚式を迎える 2012 年、兵庫県のハーフマラソンでした。このとき、私は熱中症で倒れ、ドクターヘリで病院へ。医師から家族へ「最悪の事態も覚悟してください」と告げられるほどの重体でした。生死の境をさまよいながらも、無事意識を取り戻し、後遺症も残らずに回復することができました。大阪マラソンにチャリティアンナー制度が導入されたのは、その翌年の 2013 年から。「あのとき助かったから、今の自分がある。何かの役に立ちたい！」という想いで参加を決意。今年で 6 回目になります。チャリティアンナーのゼッケンをつけて走る大阪マラソンは特別です。支援していただいた皆さんの想いや、沿道からの声援が強く背中を押してくれます。ノーベルの活動内容を多くの方に伝えるためにも、笑顔でゴールまで駆け抜けようと思います。

吉田 俊通(よしだ としみち)さん

寄付先団体:公益財団法人オイスカ

都道府県:東京都 年齢:47 歳 性別:男



津波と戦う。クロマツによる防災林再生をめざして。

津波により壊滅的な被害を受けた宮城県名取市。ここにクロマツによる 100 ヘクタールの海岸防災林の再生をめざしているのが、私たちオイスカです。現在、予定より 2 年早く苗を植えることができました。被災した野菜農家が腕を上げ育て、林野庁長官賞を受賞した 40 万本のクロマツ苗です。5 年前に初めて植えたマツは 4m に成長し、生育率は 98 パーセント。しかし、これは始まりにしか過ぎません。ここから下草刈り・つる切り・除伐・間伐などの育林をコツコツと続け、防風・防砂・塩害防止などの機能を発揮する樹高に育てるのに、30 年以上かかります。この夏も林業のプロや、ボランティア 2400 名で保育作業に当たりました。これらを私たちは公的資金に頼らず、すべて寄付金で実施します。その総費用は 10 億円。責任者として、私は走ります。あと 3 億 5000 万円。

う〜み さん

寄付先団体: 認定 NPO 法人 日本クリニックラウン協会

都道府県: 大阪府 年齢: 37 歳 性別: 女



入院生活を送る子どもたちに笑顔をお届け。それがクリニックラウン！

私は看護師として小児病棟で勤務しながら、クリニックラウンとして活動しています。クリニックラウンとは、入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、コミュニケーションを通して笑顔を育む道化師のことです。子どもたちにとって難しい「入院」という環境を、ワクワクとドキドキで心地よく過ごしてもらうことが目的。このクリニックラウンという存在は、限られた医療の現場で活動しているため、社会的認知度はまだまだ。今回、チャリティランナーとして走ることで、クリニックラウンという存在をまずは知ってもらいたいです。そして、クリニックラウンと子どもたちが出会う機会を増やしたい！この想いを伝えると、周りから快く協力していただくことができました。応援してくれる家族や友だちの大切さをより実感。この熱い応援の気持ちを胸に、大阪マラソン頑張ります！

神田 章夫(かんだ あきお)さん

寄付先団体: 認定特定非営利活動法人 育て上げネット

都道府県: 京都府 年齢: 48 歳 性別: 男



生まれて初めてのマラソン。自分と向き合い、人と向き合いたい。

今回、大阪マラソンという大きな大会で走れる機会をいただき、生まれて初めてのマラソンに挑戦します。これまでの人生で走った距離は最大で 10 キロほど。しかもタイムも気にしていなかったの、歩いているんだか走っているんだか状態…。運動不足でたるんだ体。どこまで走れるか不安を抱えながらも、トレーニングに励む日々。私が働く「育て上げネット」は、若者の「働く」と「働き続ける」を応援する団体です。私自身、若い頃、どのように生きるべきか悩んだことがありました。しかし出会いの中で温かい言葉や気持ちをもらい、とても楽になったことを覚えています。自分自身も、若者にとってそんな存在でありたい。今この仕事をさせてもらっている感謝の気持ちを込めて、この挑戦が自分の為だけではなく必ず誰かのためになると信じて、走り抜きたいです。

高橋 由美(たかはし ゆみ)さん

個人ボランティア



スポーツドリンクをランナーに手渡したとき、胸いっぱいの充実感が。

ボランティアとして参加したのは、大阪マラソンのホームページを見て、「何かお手伝いしたい!」と思ったことがきっかけです。いざ、本番でスポーツドリンクをランナーに手渡したときに、とてもやりがいを感じ、「毎年続けたい!」と思うように。もともと賑やかなことや、みんなでワイワイすることが好き。最初は一人でしたが、説明会で仲間たちと出会い、2013年の第3回大会以来続けて参加しています。ランナーをいっぱい応援して、いっぱい盛り上がり！今では大阪マラソンに限らず、寛平マラソンや大阪国際女子マラソン、淀川国際ハーフマラソンなどにも参加しています。さまざまな大会の中で、それぞれ違った出会い、違った仕事、違った経験ができてとても楽しく、やりがいを感じています。沿道から声援を送ることで、少しでもランナーに元気を届け、ゴールまで走り抜くエネルギーを与えたいと思っています。

江村 多美子(えむら たみこ)さん

団体ボランティア:南港病院



病院の患者たちと、一丸になってランナーをサポート!

8年目となる大阪マラソン。そして8回目のボランティア参加となりました。ランナーが駆け抜けるコースは、南港病院の前を通る。そのため、私たち沿道整理の配置場所に、患者さんや高齢施設の入居者さんも応援に駆けつけてくれます。ランナー・沿道の応援者・ボランティアで一丸となって、全員でゴールをめざしている空気を感じます。今回で、地元の南港がゴール地点となるコースは最後です。少し、寂しい。だからこそ、今年は法人から30名、職員が所属する自転車チームから20名、総勢50名で給水所からランナーを盛り上げます! SNS等で「30キロ地点の応援で復活した」などの声を見聞きしたときはとても嬉しいです。毎年、参加したスタッフからも来年もやりたい!という言葉が貰えます。そんな大阪マラソンがめっちゃ好きやねん!

東淀川高校ラグビー部の皆さん

力持ちボランティア:東淀川高校ラグビー部



力自慢のラグビー部が、全力で運搬をお手伝いします。

コースの横断が必要な方に対して、自転車などの運搬補助を行う力持ちボランティア。日々、ラグビーに励む力自慢の僕たちにピッタリのボランティアです。しかし今回参加させていただくメンバーは、昨年大阪マラソンでは、部活をしていたり、受験勉強をしていたり…。今回、地域の人々に貢献することに興味を持ち、また楽しそうだとも思い参加することに決めました。実はほとんどのメンバーがボランティア初体験。力になれるのか不安に思う部分もあります。多くの人々が参加するこの大阪マラソンで、迷惑をかけたくはない。しっかりと役に立ち、ランナーの皆さん、運営の皆さんの力になれるように頑張りたいです! 負けずじけず、諦めずに戦う姿勢は部活で身につけています。全員で、大阪マラソンを支えるぞ!

奈都乃チアアカデミーの皆さん

ランナー盛り上げ隊！

都道府県:大阪府



Cheer とは、相手がいてこそそのパフォーマンス。

応援の気持ちを届ける！

「ランナー盛り上げ隊！」としての出演も、今年で 5 回目になります。最初は走り抜けていくランナーたちに向かって踊るという状況が何とも不思議で、どのように声援を送ったら良いのか、邪魔にならずに応援の気持ちを伝えられるのか、戸惑いもありました。しかし、今では生徒たちが自分で踊りに組み込むコールを自分たちで考案。踊り出しの前に一斉にコールを数回入れてからダンスを披露するなど、ランナーに伝わる積極的なパフォーマンスができるようになりました。Cheer Leader とは、応援する相手がいてこそその存在です。そのことを、ランナーの皆さんが笑顔で反応してくれることで、生徒たちは実体験として学ぶことができます。ランナー盛り上げ隊への出演は、奈都乃チアアカデミーにとって、生徒達にリアルな Cheer の意味を感じさせる事ができる貴重なものです。これからも変わらず応援し続けます。

関西大学学生応援団の皆さん

ランナー盛り上げ隊！

都道府県:大阪府



総勢 160 名で、迫力ある熱い応援を送る。

我々は関西大学応援団です。我々応援団はリーダー部、吹奏楽部、バトン・チアリーダー部の三部で活動しており、総勢 160 人を超える団員を有し、本年度で 96 代を迎える、歴史と伝統を誇る団体です。我々、応援団の活動はスポーツ応援だけでなく、さまざまな学校行事や依頼イベントで、常に「緑の下の力持ち」としてあらゆる人を応援しております。この第 8 回大阪マラソンでも、ランナーの皆さまに、関西大学応援団の熱い気持ちを感じてもらえるような特別なステージをご用意しました。ぜひ、我々とともに手拍子、ご声援の程よろしくお願ひします。

西成区岸里連合第七振興町会 会長 向井 貴弘(むかい たかひろ)さん

沿道での応援

都道府県:大阪府



フレンドリーな街、西成区岸里。町会をあげてランナーをおもてなし

大阪マラソン第1回大会の開催にあたって、岸里連合町会でも何かできないかと思案。当時娘が成南中学校の吹奏楽部に所属していたので、校長・教頭・顧問の先生に声をかけて、沿道での演奏を実現しました。それから成南中学校の吹奏楽部は毎年、西成区の沿道でランナーに向けて演奏しています。雨が降ったときのために、楽器の養生やテント設置などの作業も。また、町会としては当日の警備にも対応。町会長さんはじめ青少年指導員・青少年福祉委員の方々と、ユニフォームを着て自主警備に取り組んでいます。こうした取り組みで、大阪マラソンを走る皆さんにも、岸里の良さを知ってもらいたい。交通の便も良く、多くの

地域団体の活動が活発。人が明るくて住みやすい、フレンドリーな街、岸里。今年も皆さんの笑顔のために地域一丸で頑張ります！

河堀太鼓 鼓遊会の皆さん

ランナー盛り上げ隊！

都道府県:大阪府



互いを互いを思いやることで、そのパワーは何倍にも膨れ上がる！

人が頑張る姿を間近で目の当たりにすることができる大阪マラソンは、実に感動的。私たちが太鼓の演奏をしていると、まだまだ先の長い序盤のポイントであるにも関わらず、ランナーの皆さんが足を止めてくださることがあります。写真を撮ってくれたり、一緒にリズムをとってくれたり。「大阪マラソンのすべてを楽しもう！」という意気込みを感じます。私たちのささやかな応援に、毎年「ありがとう」「頑張ります」と伝えてくれるランナーたち。反応してもらえることで、私たちの送ったパワーが何倍にも膨れ上がり、そして私たちのもとに戻ってくることを感じられます。マラソンとは、自分自身と向き合う孤独なスポーツに思われるかもしれませんが、実

は一人で乗り切るのは難しい。なによりも、お互いの思いやりをひしひしと感じられるスポーツなのです。それを毎年実感させてくれる大阪マラソンは、本当に素晴らしい大会だと思います。